

「輝く未来」と「粋なまち」の実現を

大きな転機を発展につなげる戦略



首都高が青空を遮る 日本橋

「日本橋は、江戸の商業、文化の中心。ここに来ると、江戸・東京の原点を感じるね。ただ……」

二三男くんは名橋「日本橋」のもとに立ちました。日本橋は1603年に木造の太鼓橋が架けられ、江戸時代には五街道の起点となりました。1911年には現在の石造二重アーチ橋に架け替えられ、多くの車が行き来する交通の要所となっています。しかし……。

「青空が隠れてしまっている」

二三男くんのいた70年前の世界にはなかった首都高速道路の高架橋がせつかくの青空を狭めているのです。

2年間に及ぶ二三男くんの23区を巡る旅も、いよいよ最後の目的地・中央区にたどり着きました。

「戦後の中央区がどのように発展してきた、将来はどんな街を目指しているのか、調べてみよう」

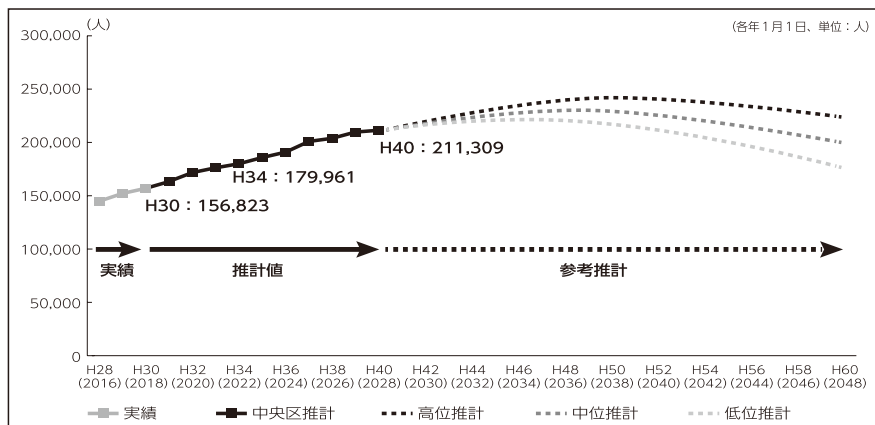
二三男くんはさっそく中央区役所へと向かいました。

総合戦略は策定していないけれど

「総合戦略を策定していない？」

区役所の広報課の職員さんに聞くと、あっさりと「ありません」と言われ、二三男くんは呆然としました。これまで22区では総合戦略を読んでも、区がどのような地域創生に取り組んでいるかを学んできました。そもそも策定していないとは……。

■ 中央区の将来人口推計



中央区は、2016年3月に人口ビジョンを策定しましたが、その頃は新しい基本構想や基本計画を検討していた時期で、総合戦略に盛り込むべき自治体間連携などの地方創生に資する政策は、新たな基本計画に取り入れられたのです。

職員さんは、困り果てた二三男くん「総合戦略は策定していませんが、基本構想と基本計画がありますよ」と、「中央区基本計画2018」という冊子を渡してくれました。

定住人口16万人の達成

中央区の人口は、1953年に17万2183人まで増加しましたが、その後は高度経済成長や都市化の進行に伴って減少に転じ、1987年には8万5299人とピーク時の



約半分まで減りました。1988年1月に「定住人口回復対策本部」を設置し、人口回復に向けた住環境の整備をはじめ、様々な取り組みを開始しましたが、バブル経済の影響等により1997年1月に7万2090人、同年4月には7万1806人と過去最低を記録しました。

その後、区の定住人口回復策がようやく実を結び始め、1998年には45年ぶりに増加に転じ、2006年4月には区が長年目標としてきた「定住人口10万」を達成しました。その後も順調に人口が増加し、2018年5月14日に59年ぶりに16万人を突破しました。

区独自の人口推計によると、今後当面転入超過による増加が続き、2028年には21万1309人に達すると想定しています。地域別では、今後も新規の住宅開発が進む月島地域の人口が大きく増加し、区全体の構成比で50%を超えることを見込んでいます。

20年後の中央区の将来像

中央区は2017年に「中央区基

本構想」を策定しました。これは、20年後の中央区の将来方向を明らかにしたものです。

基本構想では、20年後の中央区の将来像を「輝く未来へ橋をかける

——人が集まる粋なまち」としています。江戸以来の歴史に裏打ちされた伝統文化を育みながら輝く未来を創造し、住み・働き・集う全ての人々が幸せを実感し、誇りを持てる都心「中央区」をつくっていくという意味です。その上で、①一人一人の生き方が大切にされた安心できるまちを目指して②快適で安全な生活を送るための都市環境が整備されたまちを目指して③輝く個性とにぎわいが躍動を生み出すまちを目指して——の三つのまちづくりの視点と九つの「施策のみちすじ」を示しています。

基本計画2018

基本構想の策定を受けて、中央区は2018年2月に、今後10年間の区政運営の指針となる「中央区基本計画2018」を策定しました。

基本計画では、基本構想で掲げた「輝く未来」と「粋なまち」の実現

に向け、「新たな価値を創造する持続可能な発展型まちづくり」「さまざまな人々が集い、交流し、絆をつないでいく温もりのある豊かな地域社会づくり」の二つの戦略という「橋」を架けていくとしています。

さらに、基本構想で示した「施策のみちすじ」を基本政策と位置づけ、具体的な施策を挙げています。

二三男くんは、中央区が20年後の将来像に向けてどんな取り組みをしているのか、実際に現場を訪れてみ



基本構想審議会

たくなりました。再び広報課の職員さんに相談してみると、「では、次の広報紙の取材も兼ねて、いくつか案内しましょう」と案内役を買って出ってくれました。

築地市場の豊洲移転

まず、二三男くんは築地に案内されました。

長年、世界的にも日本の食文化の中心として知られてきた築地市場が2018年10月に豊洲に移転し、83年の歴史に幕を閉じました。

2010年10月に都が築地市場の豊洲移転を表明。中央区は、多くの関係者が真摯に議論を重ねてきた経緯を十分に理解するとともに、その結果として出された移転整備の結論を受け入れ、「築地ブランド」を守りながら、食文化の拠点としての築地地区の活気とにぎわいを確実に将来に引き継いでいくことにしました。

そこで区は、市場移転後のにぎわいの核となる施設「築地魚河岸」の整備を進め、2016年3月に竣工を迎え、同年11月にプレオープン、2018年10月にグランドオープン



築地市場移転後の……………にぎわいの拠点「築地魚河岸」



「築地魚河岸」

しました。

「まるで築地市場で買い物しているみたいだ！」

二三男くんは「築地魚河岸」に足を踏み入れ、生鮮市場と同じように並ぶ新鮮な魚貝類などを見て興奮しました。

「築地魚河岸」は、築地市場移転後も築地の活気ににぎわいを将来に向けて継承するため、中央区が設置しました。「食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食

のまち築地のにぎわい拠点となる施設」を目指しています。

施設は、小田原橋棟と海幸橋棟の2棟に分かれていて、1階は、水産物と青果物の市場となっており、築地の名店が軒を連ねています。小田原橋棟の3階には朝から夜まで営業している「築地の市場飯」が食べられるフードコート形式の魚河岸食堂や、食のイベントを開催するキッチンスタジオ、イベントスペースも設けられています。

「築地魚河岸」には、1日6千人から1万1千人が訪れており、外国からの観光客も目立ちます。一時は

築地市場の移転で、築地場外市場から客足が遠のくのではないかと懸念されましたが、にぎわいの拠点として期待が高まっています。

中央区は、「築地魚河岸」の整備にとどまらず、利用者や事業者のための駐車場や荷下ろし場の整備・運営、場外市場関係者で構成する「築地食のまちづくり協議会」や「築地魚河岸事業協議会」の活動支援、場外市場の広報活動支援など、ハード・ソフト両面による取り組みを行っています。

また、都は築地市場跡地のまちづくりについて、2019年3月に「築地まちづくり方針」を策定しました。中央区は、方針策定にあたり首都東京の発展に不可欠な交通結節機能とともに、食のまち築地の新たなにぎわいが創出されるまちづくりが早期に実現できるよう、都知事宛に要望書を提出しています。

選手村には大会後に1万2千人が居住

続いて、二三男くんが訪れたのは晴海です。

「昔、このあたりは占領軍に大部分

を接收されていたんだよなあ。ここに選手村ができるなんて…」

晴海地区にできる選手村は、開催時には1万8千人の選手・役員・大会関係者が利用し、開催後には5千戸以上の分譲・賃貸住宅として再整備が行われ、約1万2千人もの人口増加が見込まれます。東京2020大会のレガシーとして選手村だけでなく晴海地区全体がにぎわいと活気に満ちたまちとなるよう、小中学校をはじめ、様々な公共・公益施設や公共交通の整備・充実が重要となっています。



着々と整備が進む選手村



中央区は、晴海五丁目地区に新たな小中学校を整備。晴海四丁目には、特別出張所やおとしより相談センター、図書館、認定こども園、保健センターからなる複合公共施設を整備します。中央清掃工場に隣接する「ほっとプラザはるみ」は、築20年が経過したため、大規模改修し、地域コミュニティの核となる施設に生まれ変わります。

地下鉄新線構想

晴海地区を始めとする月島地域の急激な人口増加に対し、交通環境の改善に向けたインフラ整備が不可欠です。

中央区は2014年度から臨海部と都心部を結ぶ地下鉄新線の導入に関する調査の検討を始めました。区が検討したルートは、銀座付近から国際展示場付近までの4・8キロという路線です。2016年4月の交通政策審議会答申「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」では、常磐新線（つくばエクスプレス）の延伸との一体整備として、「国際競争力の強化に資する鉄道ネットワークのプロジェクト」に位置付け



都心・臨海地下鉄新線推進大会

られています。

2018年10月には「都心・臨海地下鉄新線推進大会」を開催し、沿線地域の住民など約350人が参加しました。

二男くんは「築地市場跡地の再開発も始まり、月島地域では将来、中央区の半分に当たる10万人以上の人口を抱えるとなると、地下鉄から大量輸送できる交通機関が不可欠だね」と納得しました。

日本橋に青空を取り戻す

二男くんは再び、日本橋に戻っ

てきました。

名橋「日本橋」を中心とした首都高速道路の移設撤去および日本橋川の再生のためには、地元や事業者と連携し、日本橋川沿いエリア全体のまちづくりを戦略的に取り組んでいくことが求められています。

2017年7月21日、国土交通大臣と都知事が日本橋上空にかかると首都高速道路の移設撤去に向けた取り組みに関する考え方を表明し、同月、中央区は「日本橋川沿いエリアのまちづくりビジョン2017」を策定しました。日本

橋川沿いの再開発事業等による一体的かつ段階的なまちづくりを千載一遇の好機と捉え、名橋「日本橋」上空の首都高速道路の移設撤去と日本橋川の再生の取り組みを推進するためのプランです。地域全体で共有する統一コンセプトは、「歴史」と「品格」を受け継ぎ、そして新たな「にぎわい」や「創造」を生み出す『日本橋交流拠点』の形成としています。

2019年10月には、日本橋の上空を覆う首都高速道路の地下化に関する都市計画決定がなされ、長年に

わたる地元の強い悲願の実現に向けた大きな一歩を踏み出しました。

発展を続ける中央区

築地、晴海、日本橋と3カ所を駆け足で巡ってきた二男くんは「さすが中央区は、その名のとおり東京の中央だけあって、築地市場の移転や東京五輪後も発展を続けていくんだな。これから中央区がどのように発展して、どんなまちの姿になるのか、楽しみだな」と、職員さんの顔を見ました。

職員さんは「そうですね。ご案内した築地市場跡地の再開発、日本橋の首都高速道路の地下化と周辺の一體的な再開発、地下鉄新線の整備など都市再生の機会を活用した愛着の持てるまちづくり、さらには心のかよい合うコミュニティ形成などによって、『輝く未来』と『粋なまち』を実現するため、これからもしっかりと取り組んでいかなければいけませんね」と語りました。

二男くんは、3カ所を駆け巡り、お腹がすいたので、「築地魚河岸」で新鮮な魚介類を味わうため、築地に戻っていききました。